

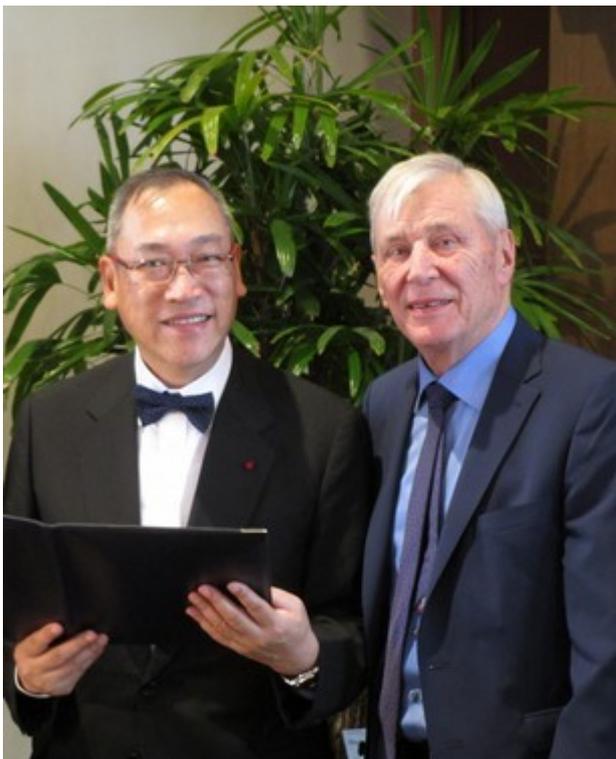
明治学院バッハ・アカデミー会報（第3号）

《マタイ受難曲》に向けて

芸術監督 樋口隆一

3月に明治学院大学を定年退職させていただいた。2月21日の最終講義には、驚くほど多くの方々が聴きに来て下さり、まことに感謝に堪えない。その内容は、明治学院大学『藝術学研究』に寄稿したので、ほどなく大学図書館のリポジトリから発信されることだろう。最終講義や、そのときに発表されたテオドル・ベルヒュム賞受賞の件が、日本経済新聞「文化往来」や、朝日新聞国際欄でもご紹介いただいたことも思い出深い。

退職はしたものの、毎月曜日の大学院の授業は継続し、その夜にはバッハ・アカデミー合唱団の練習がある。国際音楽学会副会長の仕事もあり、4月には会議でバーゼルのスコラ・カントルムへ、6月には国際学会でニューヨークのジュリアード音楽院へと出かけていった。7月10日にはヴェルツブルク大学で、テオドル・ベルヒュム賞の授賞式があり、久しぶりに家内と2人でドイツ旅行をした。ベルヒュム教授は、ヴェルツブルク大学の学長を29年、DAAD(ドイツ学術交流会)の会長を20年務められた方で、DAADはそのお名前を永久に記念するために、国際交流に貢献した人物を顕彰することを目的とした同賞を設立された。この日はベルヒュム教授の80歳の祝賀行事が大学教会で行われ、高名な宗教政治学者でバイエルン州の文化教育大臣を16年も務められたハンス・マイヤー教授の祝賀講演のあと、第2回ベルヒュム賞の授与式が行われた。なお第1回は2011年に、アーヘン工科大学の学長が受賞されている。今回は、世界各国から推薦された20数名の候補者の中から、これまた国際的な審査委員会によって選考が行われたとのことで、まことに恐縮のかぎりである。



授賞式にて、ベルヒュム教授と。

ヴァンターマンテル会長が挙げられた授賞理由は以下の4点、つまり①1974～79年、DAAD奨学生としてテュービンゲン大学で学んだ後、『新バッハ全集』の校訂をはじめとして、長くバッハの研究と指揮活動を国際的に展開してきた。②2005年以来DAAD友の会会長として、日独ならびに東アジアの学術交流に貢献している。③2008年以来、ワイマール音楽大学と明治学院大学芸術学科との交流事業を推進してきた。④2012年以来、国際音楽学会副会長として、世界の音楽研究に貢献していることであった。さらに会長は、特に2006年、明治学院バッハ・アカデミーを率いてライプツィヒ国際バッハ音楽祭に招待出演したことと、国際音楽学会副会長としての活動を強調されていた。若き日に奨学金をいただいてドイツでの研究生活を許されたことだけ

でもありがたいのに、その後 40 年にもわたる活動もフォローしてくださり、名誉ある賞を頂けたことのありがたさを噛みしめている。



ヴェルツブルク大学教会



授賞式にて美砂子夫人と。

秋から春にかけても、意義深い演奏会が続く。まず 10 月 2 日 (金) 16 時 30 分より横浜市開港記念会館講堂で予定されているのが、講演・演奏会「激動の 20 世紀と亡命ユダヤ人音楽家ーレオ・シロタを中心に」である。主催は「第 1 次世界大戦 100 年展実行委員会」で、講演の前後には映画『シロタ家の 20 世紀』の上映会もある。合唱団が歌うのは、高田三郎作曲の「水のいのち」全 5 曲である。高田先生は亡命ユダヤ人音楽家クラウス・プリングスハイムの高弟なのである。両大戦間に遠く日本に亡命された彼らの教育活動こそは、今の日本の音楽界の礎であったことを忘れてはならない。11 月 14 日 (土) 16 時から、宮城県の白石ホワイトキューブで、地元のキューブ合唱団、N 響団友オーケストラと、モーツァルト《ミサ曲変ロ長調》、交響曲第 29 番ほかのジョイント演奏会。パイプオルガンもあり、日本でも最高水準の音響を誇るホールなので楽しみである。さらに 11 月 28 日 (土) は、港区と明治学院大学によるチャレンジコミュニティ大学の特別演奏会。プログラムは、高田三郎《水のいのち》、千原英喜《雨ニモマケズ》から 2 曲と、モーツァルトの独唱モテット《エクスルターテ・ユビラーテ》と《ミサ曲変ロ長調》。会場は明治学院大学アートホールである(非公開)。12 月 23 日 (水) には、例年通り、明治学院チャペルで「クリスマス音楽礼拝」が予定されている。

2015 年度のメインイベントは、2016 年 3 月 20 日 (日) 18 時よりサントリーホールで開催される《マタイ受難曲》演奏会である。この日は、キリスト教の暦では、復活祭の 1 週間にあたる枝の主日(棕櫚の日曜日)にあたる。ジョン・エルウイスの福音史家、河野克典のイエスを中心に展開する受難曲の演奏にはまことにふさわしい。合唱団は、あるときは「十字架に付けろと」叫ぶ無慈悲な群衆を代弁し、またあるときは美しいコラールによって、受難の物語に寄せる一般大衆の気持ちを代弁する。第 1 部の冒頭と最後に登場するソプラノ・リピエーノのコラール唱は、一般には少年合唱に歌わせることが多いが、明治学院高等学校ハイグリークラブの若い歌声が、さらに雰囲気盛り上げることだろう。維持会のご援助もあって、昨年引き続きサントリーホールでの演奏が可能となった。満員の聴衆のみ

なさまとともに、このバッハの最高傑作の精神世界に分け入っていきたい。



2014年10月13日 「ミサ曲口短調」演奏会（サントリーホール）写真:星ひかる



「祈りの曲は時空を超えて」

ソプラノ 染谷椒子

私が明治学院バッハアカデミー合唱団に入団したのは、合唱団創設年の2000年度半ばからです。親しい友人である明学の先生が、合唱団員募集を私に連絡してくださいました。その年の前学期は5時限目の授業があり、練習に間に合わず、後学期から参加させていただきました。今では初年度からの会員は数えるほどになりました。

休みがちで積極的にかかわれない私を、疎んずることなく、自由に歌わせてくださる樋口先生をはじめ、合唱団維持のために重責を担う団員の方々に、改めて感謝をいたします。

長く続いているもう一つの理由は、明治学院が私の母校であることです。チャペルで入学式が行われた時、パイプオルガンの響きとともに、グリークラブの合唱がありました。ボーとして聞いていた私に、隣に座っていた母は、「あの合唱団に入りたいのでしょ？」と声を

かけました。「ウーン、そう…」と答え、躊躇なくグリークラブに入りました。当時のグリークラブは、池宮英才先生を常任指揮者とし、オルガニストの園部先生が通常の合唱指導をなさっていました。そして各パートが50人程度、合計約200人の大所帯でした。1週間に4回の練習と、お昼休みのパート練習。そして年3回の合宿練習とたびたびのコンパ。そのうえ“グリーンピック”とやらの運動会までありました。グリークラブの活動は大変で私は着いて行かれず、2年生の途中で退部。しかし初めてチャレンジしたBachのChristmas Oratorioは、忘れ難い感動だけに終わらず、虜にされました。



マタイ受難曲演奏会当日のゲネプロの様子。

子供の頃から歌が好きで、歌っていました。幼稚園も目黒雅叙園前の行人坂にある日本基督教団行人坂教会の幼稚園に行きました。その後も日曜学校に通いましたので、賛美歌は幼い頃から歌っていました。しかしオーケストラの演奏による混声四分の合唱は、次元の異なるものでした。明治学院大学グリークラブは退団しましたが、当時池宮先生が指導していらしたオラトリオ合唱団に入りました。練習会場は東京女子大学でした。2005年、東京女子大学の大学院後期課程新設にあたり、突然お呼びがかかったことに、私は何か運命を感じる思いでした。そして赴任後は、学生と

ともに東女のメサイアを歌い続けています。オラトリオ合唱団には、1975年に奨学金を受け、フィラデルフィア郊外にあるBryn Mawr CollegeのPh.D. courseに入学する直前まで歌い続けました。1980年に博士号を取得し卒業しましたが、その後もしばらくBryn Mawrにいましたことから、結局帰国直前まで、6年に渡り聖歌隊で歌い続け、私の精神状態維持の大いなる助けとなりました。

母校明学のバッハアカデミー合唱団は、私にとって大きな心の支えです。美しいメロディーに心身を癒されています。月曜日は3コマの授業を終え、疲れ果てて足を引きずりながら明学にたどり着くことも度々でした。しかし不思議なことに、歌い始めてしばらくすると、疲れが抜けてきます。そして練習終了後は、心軽やかに帰宅するようになりました。私にとって、まさに混声四部の宗教曲を歌うことは、心身の癒しであり、“人生のビ



会場の明治学院白金チャペル。

タミン剤”といえます。とりわけマタイ受難曲のメロディーは、演奏する人、聴いている人の心を奪い、陶酔させる魔力を持っています。合唱の各パートは2部に分かれ、8つの合唱が展開します。

かつてユダヤ系アメリカ人でオーストラリアに帰化している友人に、「クリスチャンの少ない日本で、なぜキリストの受難曲が好まれて演奏されるのか」と、問い詰められたことがあります。私は一瞬戸惑いましたが、「日本人は信者で有るか無いかにかかわりなく、その曲の美しさに魅了される」と答えました。何事にも **cynical** な心理学者の彼は、**All right!**、と納得してくれました。それはまさに、宗教、文化、時代を超え、普遍的に人の心を揺さぶるバッハの魔法です。マタイ受難曲は、イエスが安らかに眠ることを願う、祈りの曲で終わります。わが国は戦後70年を迎え、多くの犠牲者悼み、平和への祈りが続いています。また、絶えず自然災害に多くの命を奪われ、無常を知る国民です。それゆえにキリストの受難曲は平和への祈りと重なり、時空を超え、日本人の心を揺さぶるのでしょう。

前回、2008年の演奏会時には多くのチケット希望者があり、明学のチャペルに入りきれず、2日連日で2回の演奏会を持ちました。今回はサントリーホールという、素晴らしい会場で演奏する機会を持ちます。多くの方々とともに、あの甘美な祈りのメロディーに心を震わせ、思いを重ねることができますよう、今、団員一同、練習に励んでおります。どうぞ、ご期待ください。



「マタイ受難曲と私」

テノール 伊田 明弘



歌うソムリエ(打ち上げにて)

私とマタイ受難曲との出会いは、樋口先生の著書「バッハ」(新潮文庫)だった。東京音楽大学の1年生として音楽の道への第一歩を踏み出した私は、詳細にまで調査なさって書かれている文章に引き込まれ、何度も読み返していた。その中でも特に印象に残った部分はマタイ受難曲の部分だった。導入の合唱のリピエーノが赤いインクで書かれていたこと、バッハの死後、メンデルスゾーンによって「再発見」されるまで忘れ去られていたことなどが特に印象に残った。

社会人となり合唱と遠ざかっていたが、母校の明治学院で活動するバッハ・アカデミーの事を知り、樋口先生の指導で、マタイ受難曲の公演に向け、練習をしているとの事だった。無謀にも樋口先生に直接メールを送ったところ、快く入団させていただけました。私にマタイ受難曲の素晴らしさを著書を通して教えていただいた

先生のもとで歌える幸運な偶然な感謝した。入団時点で公演まで半年も無く、この難曲を歌えるようになるまでは大変だったが、演奏は大成功で、深い感動を覚えたのが昨日のこのようだ。この時の演奏会はチケットが早々に完売、急遽ゲネプロの予定だった前日を追加公演にするほどの大盛況だった。また、明治学院高校ハイグリークラブの後輩たちがリピエーノとして参加してくれたことも感慨深い。

私は常日頃、周囲の者に口短調ミサは「人類が作ったもっとも美しい難曲」、マタイ受難曲は「世界遺産に登録されるべき人類の誇る難曲」と話している。様々な映画、TVなどでBGMで使用されている導入の合唱と終曲、福音史家が歌う聖書物語、ソリストによって表現される人々の想い。なかでも合唱団が感情を露わにして歌う、群衆の叫びは圧巻だ。そして要所に挿入されるコラールの美しい響き、イエスの最後の生々しい受難と、それによってもたらされる永遠の国の素晴らしさを対比表現しているように私には思える。

バッハ・アカデミーで歌うもう一つの喜びは日本の古楽器第一人者によって構成されるバッハ・アカデミー合奏団との共演だろう。チェンバロの美しい響きはもちろん、普段目にする機会の少ない管楽器や、見た目には違いが分かりにくい、バイオリンもガット弦の柔らかな響きだ。一般的なオーケストラとの共演は、リハーサルは当日だけが多いが、バッハ・アカデミーでは複数日行うため、本番では息のぴったり合った演奏が出来るのも魅力だ。



バッハ・アカデミー合奏団の面々。

2016年3月20日に第2回バッハ・アカデミー主催公演をサントリーホールで迎える。バッハ・アカデミーにとって3度目のマタイ受難曲の演奏だ。福音史家には前回も共演した名歌手ジョン・エルウイス。世界最高レベルの音響で、私たちの演奏がどう響くのか、楽しみに練習を続けていきたいと思う。

最後に「歌うソムリエ」として、マタイ受難曲をワインに例えてみたい。オープニングから圧倒的な存在感で飲み手を引き込む力強さ、複雑な動きの音形とエレガントなメロディー、ハーモニーの組み合わせ、終曲の最終音が鳴りやんでさえ、残る感動的な余韻からすると、これは偉大なブルゴーニュ産赤ワイン、ナポレオンも愛したという、シャンベルタン・クロ・ド・ベーズではないだろうか。

3月のコンサートを成功に終わらせ、録音を聴きながら味わうという贅沢をしてみたいものである。



(事務局だより)

バッハアカデミー維持会 第二期募集中！

これからの演奏会のお知らせ

<マタイ受難曲>

日時・会場：2016年3月20日(日)18時開演 サントリーホール 大ホール

曲目：J.S. バッハ 《マタイ受難曲》 BWV244

指揮：樋口隆一

□ 維持会員の方には、本公演の招待券を1枚お送りいたします。また、本公演のチケットを維持会員特別価格にてご購入いただけます。

<第一次大戦100年展実行委員会主催講演・演奏会>

日時・会場：2015年10月2日(金) 16:30開演 横浜市開港記念会館 講堂にて

講演：「激動の20世紀と亡命ユダヤ人音楽家ーレオ・シロタを中心に」

演奏曲目：高田三郎 「水のいのち」

講演・指揮：樋口隆一

□ 同日演奏会後同会場にて、映画「シロタ家の20世紀」上映会も行います(チケット別途)

<白石キューブ合唱団とのジョイントコンサート>

日時・会場：2015年11月14日(土) 16:00開演 白石ホワイトキューブ(宮城県白石市)にて

曲目：千原英喜 「雨ニモマケズ」、モーツァルト 「エクスルターテ・ユビラーテ」「交響曲第29番イ長調 KV.201(186a)」「ミサ・ブレヴィス KV275」 他

指揮：佐々木隆行、樋口隆一



横浜市開港記念会館(公式サイトより)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/naka/kaikou/>



白石ホワイトキューブ

<http://www.shiro-f.jp/whitecube/>

バッハ・アカデミー ホームページ: <http://www1.m.jcnnet.jp/bachakademie/>

2014 明治学院バッハ・アカデミー維持会 会計報告につきまして

ソプラノ 海老沢 久美子(会計担当)

バッハを中心としたキリスト教音楽等の本格的上演・普及を目的とした任意団体「明治学院バッハ・アカデミー」の恒常的活動を可能とするため、2014年5月に設立しました「明治学院バッハ・アカデミー維持会」は、多くの皆さまのご賛同とご協力のもと、初年度の活動を終了いたしました。2014年10月13日、サントリーホールにおけるバッハ作曲《ミサ曲ロ短調》演奏会が成功裡に終わられましたのも、維持会員の皆さまのご支援の賜物と、ご厚情に心より感謝申し上げます。

先ごろ、2014年度の維持会会計報告書を作成し、西井公認会計士事務所様に監査をお願いしましたところ、適正に作成されているとのご判断を頂戴しましたので、ご報告させていただきます。

2015年度、明治学院バッハ・アカデミーでは、2016年3月20日にサントリーホールにおいて、バッハ作曲《マタイ受難曲》の演奏会を開催するための準備を進めております。今後も、引き続き明治学院バッハ・アカデミーの活動にご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

<div style="text-align: center;"> <h3>報告書</h3> <p>平成27年7月20日</p> <p>明治学院バッハアカデミー維持会御中</p> <p>西井公認会計士事務所 公認会計士 西井植夫</p> <p>私は明治学院バッハアカデミー維持会の2014年5月1日から2015年3月31日までの会計報告の収入及び支出について調査等を行いました。調査は補助簿と預金通帳との照合、担当者に対する質問等により実施しました。</p> <p>調査した結果、収支計算作成に至る関連帳簿及び書類は整然と保管整理されており、上記会計報告は適正に作成されているものと判断しました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> </div>	<div style="text-align: center;"> <h3>2014年度 明治学院バッハアカデミー維持会 会計報告</h3> <p>会計期間：2014年5月1日～2015年3月31日</p> <p style="text-align: right;">2015年7月14日作成</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">収入</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前年度繰越</td> <td style="text-align: right;">¥ 1,000</td> <td>一時借入金</td> </tr> <tr> <td>維持会費(個人会員分)</td> <td style="text-align: right;">¥ 1,220,000</td> <td>53名 122口</td> </tr> <tr> <td>維持会費(法人会員分)</td> <td style="text-align: right;">¥ 100,000</td> <td>1法人 1口</td> </tr> <tr> <td>雑収入</td> <td style="text-align: right;">¥ 109</td> <td>預金利息</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">¥ 1,321,109</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">支出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>招待チケット代金</td> <td style="text-align: right;">¥ 630,000</td> <td>65,000×126枚</td> </tr> <tr> <td>手数料</td> <td style="text-align: right;">¥ 216</td> <td>振込手数料1件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">¥ 630,216</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">残高(次年度繰越)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">¥ 690,893</td> </tr> </tbody> </table> <p>★維持会費内訳</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">1)個人会員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指導者</td> <td style="text-align: right;">2件</td> <td>45口</td> </tr> <tr> <td>団員</td> <td style="text-align: right;">28件</td> <td>37口</td> </tr> <tr> <td>明治学院関係者</td> <td style="text-align: right;">8件</td> <td>20口</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td style="text-align: right;">14件</td> <td>20口</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td style="text-align: right;">52件</td> <td>122口(1,220,000)</td> </tr> <tr> <th colspan="3">2)法人会員</th> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">1件</td> <td>1口(100,000)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">54件</td> <td>¥1,320,000</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">以上のとおり報告いたします。</p> <p style="text-align: right;">2015年7月14日 会計担当：海老沢 久美子</p>	収入			前年度繰越	¥ 1,000	一時借入金	維持会費(個人会員分)	¥ 1,220,000	53名 122口	維持会費(法人会員分)	¥ 100,000	1法人 1口	雑収入	¥ 109	預金利息	計	¥ 1,321,109		支出			招待チケット代金	¥ 630,000	65,000×126枚	手数料	¥ 216	振込手数料1件	計	¥ 630,216		残高(次年度繰越)			¥ 690,893	1)個人会員			指導者	2件	45口	団員	28件	37口	明治学院関係者	8件	20口	一般	14件	20口	小計	52件	122口(1,220,000)	2)法人会員				1件	1口(100,000)	合計	54件	¥1,320,000
収入																																																														
前年度繰越	¥ 1,000	一時借入金																																																												
維持会費(個人会員分)	¥ 1,220,000	53名 122口																																																												
維持会費(法人会員分)	¥ 100,000	1法人 1口																																																												
雑収入	¥ 109	預金利息																																																												
計	¥ 1,321,109																																																													
支出																																																														
招待チケット代金	¥ 630,000	65,000×126枚																																																												
手数料	¥ 216	振込手数料1件																																																												
計	¥ 630,216																																																													
残高(次年度繰越)																																																														
	¥ 690,893																																																													
1)個人会員																																																														
指導者	2件	45口																																																												
団員	28件	37口																																																												
明治学院関係者	8件	20口																																																												
一般	14件	20口																																																												
小計	52件	122口(1,220,000)																																																												
2)法人会員																																																														
	1件	1口(100,000)																																																												
合計	54件	¥1,320,000																																																												